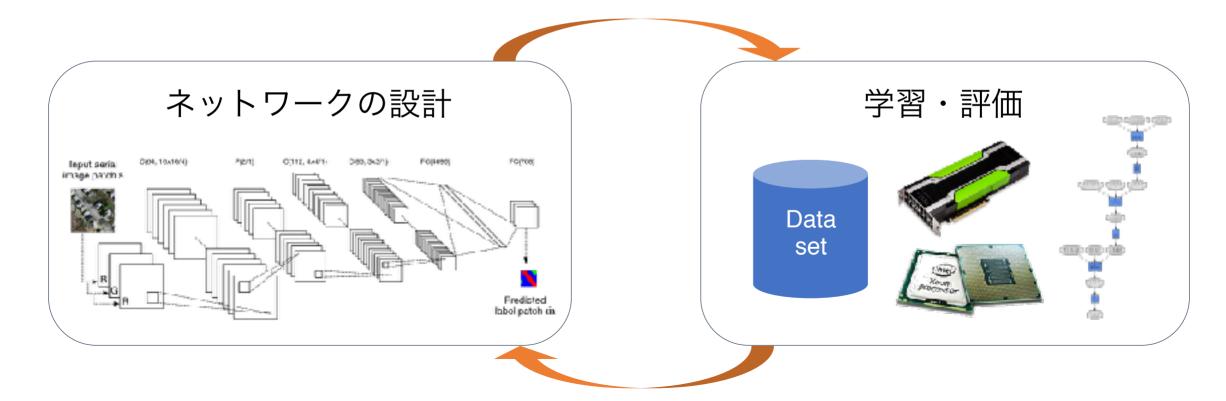
深層学習フレームワークChainer

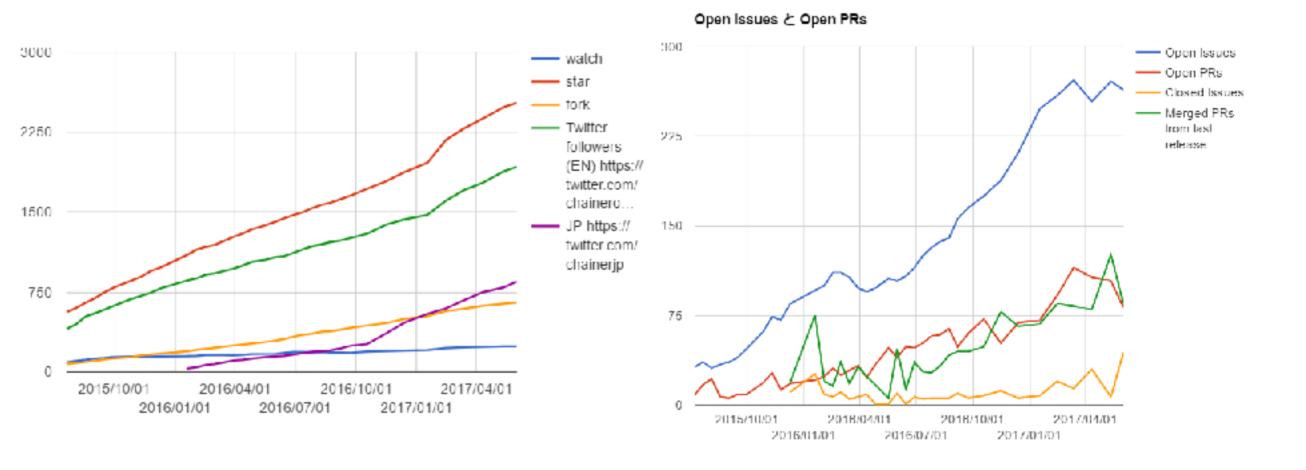
ニューラルネットワークの設計・学習・評価等、深層学習を用いた研究開発に必要となる一連の機能を提供



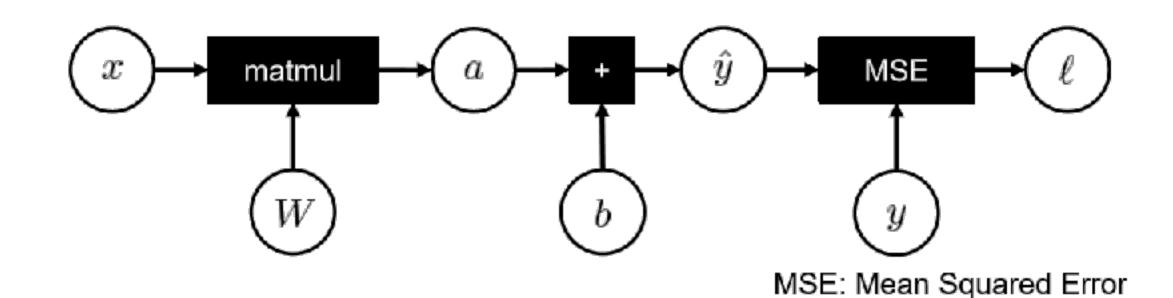
Chainer の特徴と機能

Powerful	☑ CUDA	CUDAを用いたGPU計算のサポート		
	☑ cuDNN	cuDNNによる高速な学習/推論		
	☑ NCCL	NCCLを用いた高速なマルチGPU学習をサポート		
Flexible	☑ Convolutional Network	N次元の入力に対応したConvolution, Deconvolution, Pooling, BN, 等		
	☑ Recurrent Network	LSTM, Bi-directional LSTM, GRU, Bi-directional GRU, 等のRNNコンポーネント		
	☑ Many Other Components	ニューラルネットワークで使われる多くのレイヤ定義、各種ロス関数		
	✓ Various Optimizers	SGD, MomentumSGD, AdaGrad, RMSProp, Adam, 等の最適化手法が選択可能		
Intuitive	☑ Define-by-Run	複雑なネットワークの記述が容易		
	☐ High debuggability	Pythonライブラリであるためエラー箇所の特定が容易:デバッグしやすい		
	☑ Simple APIs	様々なNNの学習で共通する部分を抽象化、一連の学習フローを簡易に記述可		

Chainer Popularity Growth



ニューラルネットワーク=計算グラフ



l = MSE(matmul(x, W) + b, y)

● 入力ベクトルに対して線形・非線形な関数を多数適用する計算グラフだと捉えるとよい

計算グラフをどうやって扱うか



計算グラフの定義と、 定義に従って計算を 実際に行うコードが 別に存在



実際に計算を行うコード自体が計算グラフの定義として扱われる

Chainerでは?→動的

Chainerは"Define-by-Run"を採用した初めての深層学習フレームワーク*

* autogradがChainerに先駆けて存在したが、深層学習フレームワークとしてはChainerが初めてと思われる

• Define-and-Run(静的グラフ)

まず計算グラフを構築し、構築した計算グラフにデータを流すという、2ステップから成る(Caffe, theano, TensorFlowなど)

• Define-by-Run (動的グラフ)

通常の行列演算をする感覚で順伝播処理をすると同時に、逆伝播用の計算グラフが構築される(Chainer, DyNet, PyTorchなど)

Define-and-Run & Define-by-Run

Define-and-Run

```
#構築
x = Variable('x')
y = Variable('y')
z = x + 2 * y
#評価
for xi, yi in data:
 eval(z, (xi, yi))
```

Define-by-Run

```
# 構築と評価が同時

for xi, yi in

data:

x = Variable(xi)

y = Variable(yi)

z = x + 2 * y
```

データを見ながら 違う処理をしてもよい

Define-by-Runがもたらす柔軟性と直感性

- 「実際に行われたForward計算」がそのままネットワークの定義となること がもたらす高い自由度
 - データ次第でネットワーク構造を変化させることが容易
 - ・ ネットワークを自体をプログラムで定義できる=ネットワークの構造をデータではなく、プログラムとして扱える
- ・ Chainerの場合、その「Forward計算」をPythonで書ける
 - Pythonの構文を用いてネットワーク構造が自由に書ける
 - ネットワークの計算の途中にprint文を挟むといった任意の処理を挿入するのがDefine-by-Runであれば容易(ネットワークをコンパイルしてしまう場合はこういったデバッグが難しい。)
 - 同じネットワークのコードを少ない変更でいるいるな目的に使い回しやすい(条件分岐 を部分的に追加するだけで済む、など)
 - Pythonのデバッガを使ってネットワークの中間値などをチェックしたり、ネットワーク の設計自体をチェックするなどが容易

Chainer v2.0.1

大幅なメモリ消費量削減、ユーザフィードバックを反映しAPIを整理



Aggressive Buffer Release for 学習時メモリ使用量削減の効果→ https://chainer.org

architecture	v1.22.0	v2-abr	ratio
nin	1233 MB	910 MB	74.6%
googlenetbn	3485 MB	2959 MB	84.9%
resnet50	5835 MB	3868 MB	66.3%



 GPUを使った配列演算を NumPyとほぼ同一のイン ターフェースでできる CuPyを独立したライブラ リとしてリリース https://cupy.chainer.org



CuPyの進化

ChainerにおけるGPU計算を全て担当するライブラリが独立

NumPy互換APIで低コストにCPUコードをGPUへ移行

特異値分解などの線形代数アルゴリズムをGPU実行

KMeans, Gaussian Mixture ModelなどのExampleの充実



https://github.com/cupy/cupy

```
import numpy as np
x = np.random.rand(10)
W = np.random.rand(10, 5)
y = np.dot(x, W)
GPU
```

```
import cupy as cp
x = cp.random.rand(10)
W = cp.random.rand(10, 5)
y = cp.dot(x, W)
```

Chainerの追加パッケージ

分散深層学習・深層強化学習・コンピュータビジョン





分散学習

MN

ChainerMN: 分散深層学習用追加パッケージ

高いスケーラビリティ(128GPUで100倍の高速化)



強化学習

RL

ChainerRL: 深層強化学習ライブラリ

DQN, DDPG, A3C, ACER, NSQ, PCL, etc. OpenAl Gym サポート



画像認識



ChainerCV: 画像認識アルゴリズム・データセットラッパーを提供

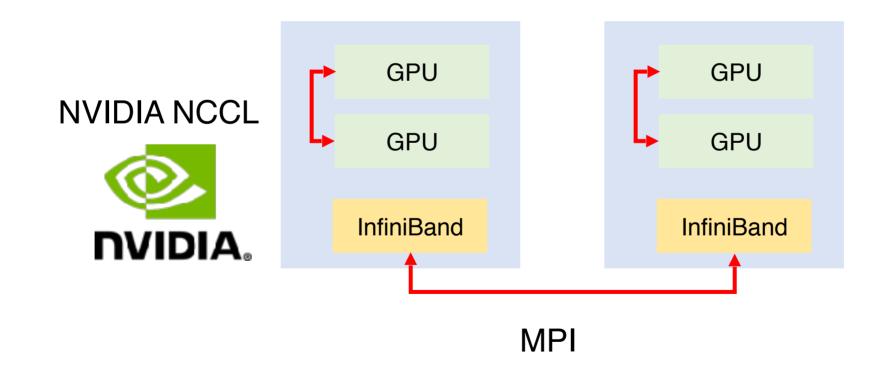
Faster R-CNN, Single Shot Multibox Detector (SSD), SegNet, etc.

ChainerMN

Chainer + Multi-Node

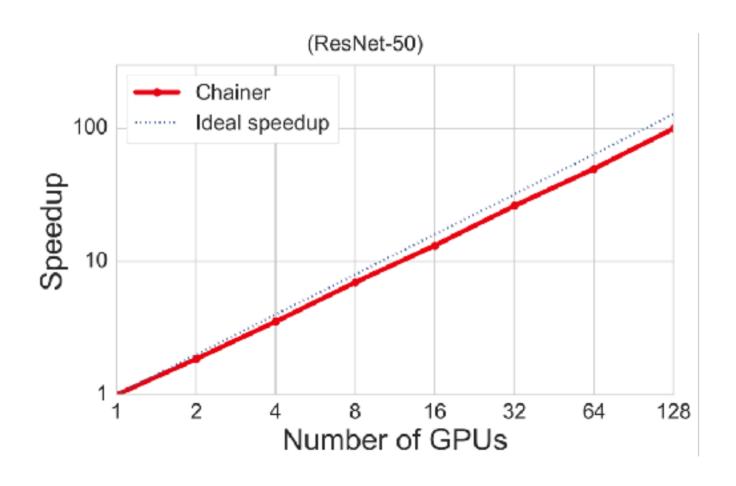
ChainerMN: Multi-node

Chainerの使いやすさはそのままに、複数GPU、複数ノード安協で 高速に学習することができる



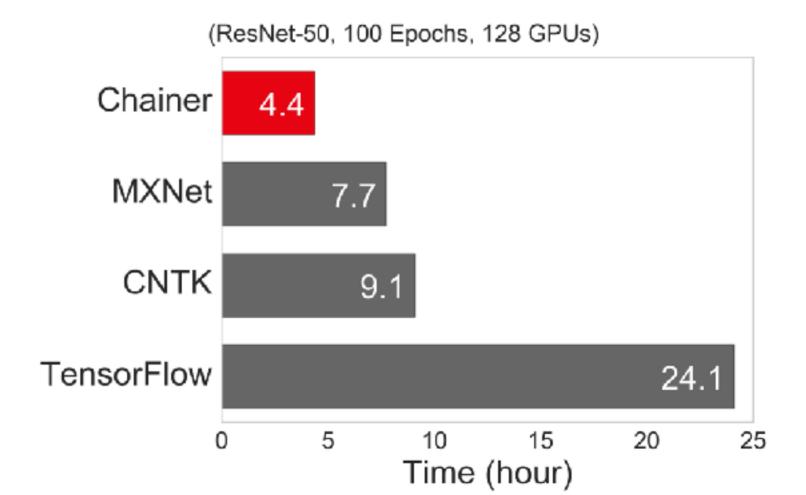
ChainerMNによる分散深層学習

128GPUsを使っておよそ100倍の高速化に成功



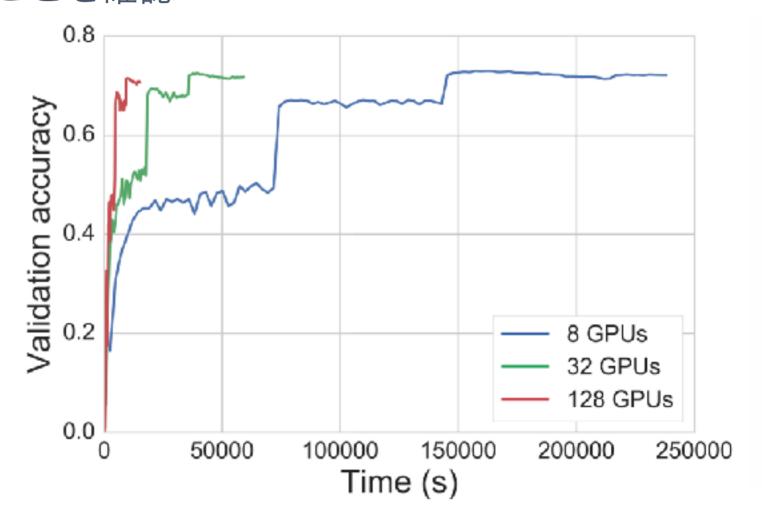
他フレームワークと比較しても高速

ImageNetデータセットにてResNet-50モデルを100エポック学習するのに要した時間による比較



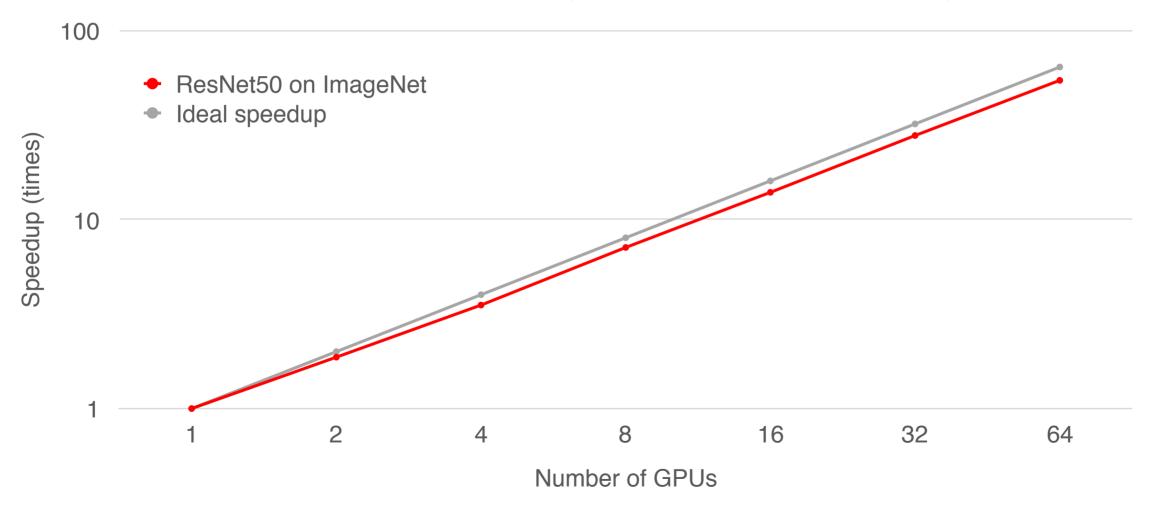
ChainerMNによる分散深層学習

使用する分散ノード数(GPU数)を増やしていったとしても、同等の精度まで到達することを確認



高いスケールアウト性能をAzure上で実現

ChainerMN on Azure (K80, batchsize=32, InfiniBand)

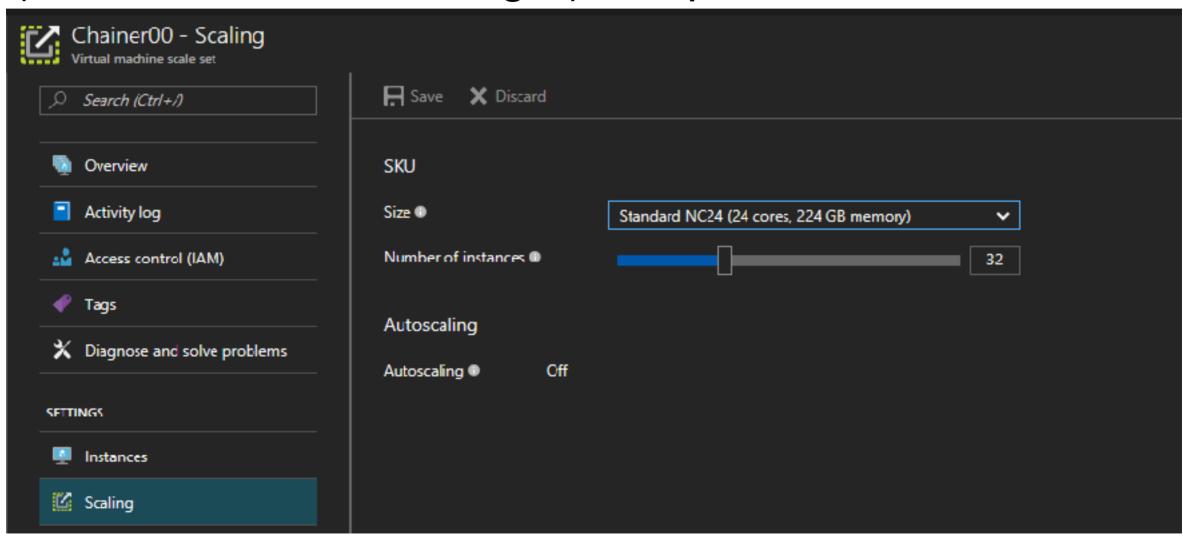


ChainerMNによる分散深層学習

既存のコードを多少書き換えるだけで利用できる(!)

```
optimizer =
chainer.optimizers.MomentumSGD()
```

ChainerMNクラスタセットアップのためのARM (Azure Resource Manager) Templateを公開予定



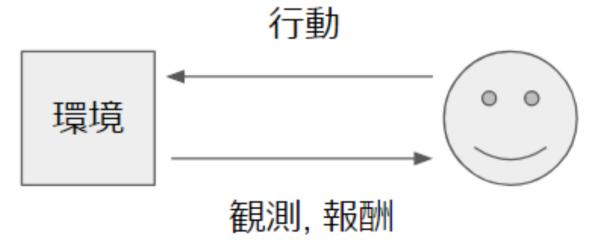
ChainerRL

Chainer + Reinforcement Learning

ChainerRL: 深層強化学習ライブラリ

強化学習?

エージェントが環境とのインタラクションを通じて報酬を最大 化する行動を学習する



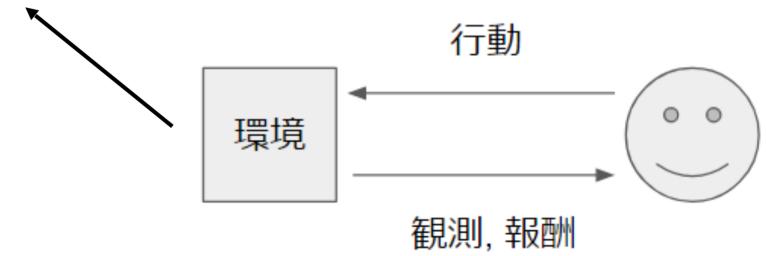
ChainerRL

build passing coverage 71% docs latest pypi v0.1.0

ChainerRL is a deep reinforcement learning library that implements various state-of-the-art deep reinforcement algorithms in Python using Chainer, a flexible deep learning framework.

1. 環境を構築

```
env = YourEnv()
# reset は環境をリセットして現在の観測を返す
obs = env.reset()
action = 0
# step は環境にアクションを送り、4つの値(次の観測、報酬、エピソード終端かどうか、追加情報)を返す
obs, r, done, info = env.step(action)
```



2. モデルを定義 (contd.)

Q-Function: 観測→各行動の価値(将来の報酬の和の期待値)

ActionValue: Discrete, Quadratic

2. モデルを定義

Policy: 観測→行動の確率分布

Distribution: Softmax, Mellowmax, Gaussian,...

環境

3. エージェントを定義

```
q_func = CustomDiscreteQFunction()
optimizer = chainer.Adam()
optimizer.setup(q_func)
agent = chainerrl.agents.DQN(q_func, optimizer, ...) # 残りの引数は省略

行動
```

観測,報酬

4. インタラクションさせる

```
# Training
    obs = env.reset()
 456789
     done = False
     for _ in range(10000):
         while not done:
             action = agent.act_and_train(obs, r)
             obs, r, done, info = env.step(action)
         agent.stop_episode_and_train(obs, r, done)
         obs = env.reset()
12
         done = False
     agent.save('final_agent')
```

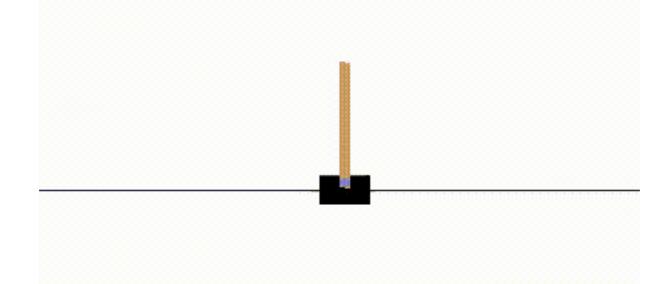
実装済みのアルゴリズム

- Deep Q-Network (Mnih et al., 2015)
- Double DQN (Hasselt et al., 2016)
- Normalized Advantage Function (Gu et al., 2016)
- (Persistent) Advantage Learning (Bellemare et al., 2016)
- Deep Deterministic Policy Gradient (Lillicrap et al., 2016)
- SVG(0) (Heese et al., 2015)
- Asynchronous Advantage Actor-Critic (Mnih et al., 2016)
- Asynchronous N-step Q-learning (Mnih et al., 2016)
- Actor-Critic with Experience Replay (Wang et al., 2017) <- NEW!
- Path Consistency Learning (Nachum et al., 2017) <- NEW!
- etc.

ChainerRL Quickstart Guide

 Jupyter notebookでQ-functionを定義し、Double DQNでCart Pole Balancingを学習

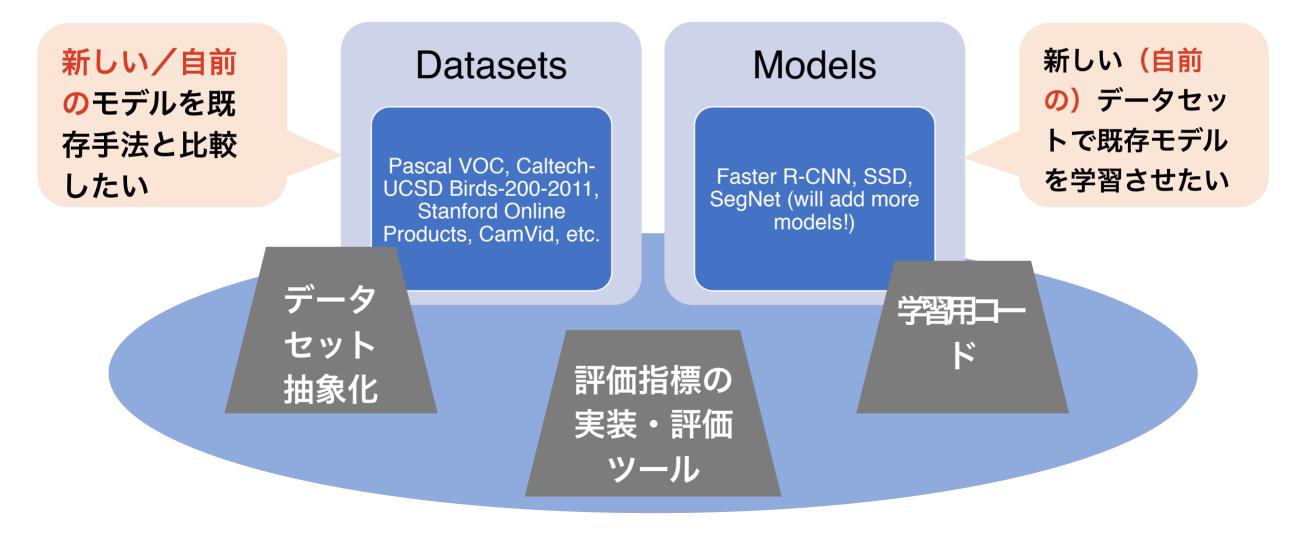
https://github.com/pfnet/chainerrl/blob/master/examples/quickstart/quickstart.ipynb



Chainer + Computer Vision

https://github.com/pfnet/chainercv

深層学習を応用した画像認識の研究・開発をもっと簡単に



深層学習を応用した画像認識の研究・開発をもっと簡単に

最新のアルゴリズムを自前のデータで

セグメンテーションのアルゴリズム(SegNet,...)や、実装が複雑な物体検出のアルゴリズム(Faster R-CNN, SSD,...)のモデル定義と、学習用コード、推論用コードの提供

再現性の確認を重視した安心の実装

• 学習用コードは、きちんと文献値の再現が行えることがチェックできなければ マージしない

<> Code

(!) Issues (12)

Pull requests 8

Projects 0

🕮 Wiki

https://github.com/pfnet/chainercv

Set of tools for Computer Vision using Chainer

Edit

深層学習を応用した画像認識の研究・開発をもっと簡単に

訓練済みの重みをすぐに利用可能

• 公開データセットを用い、文献値の再現が確認されたChainerによるモデルの学習コードを用いて得られた訓練済みパラメータも同時に配布

オリジナルのモデルを既存のデータセットで

• Chainerで実装された新しいモデルの検証を行うために、既存の公開データセットをすぐに使い始めることができます。

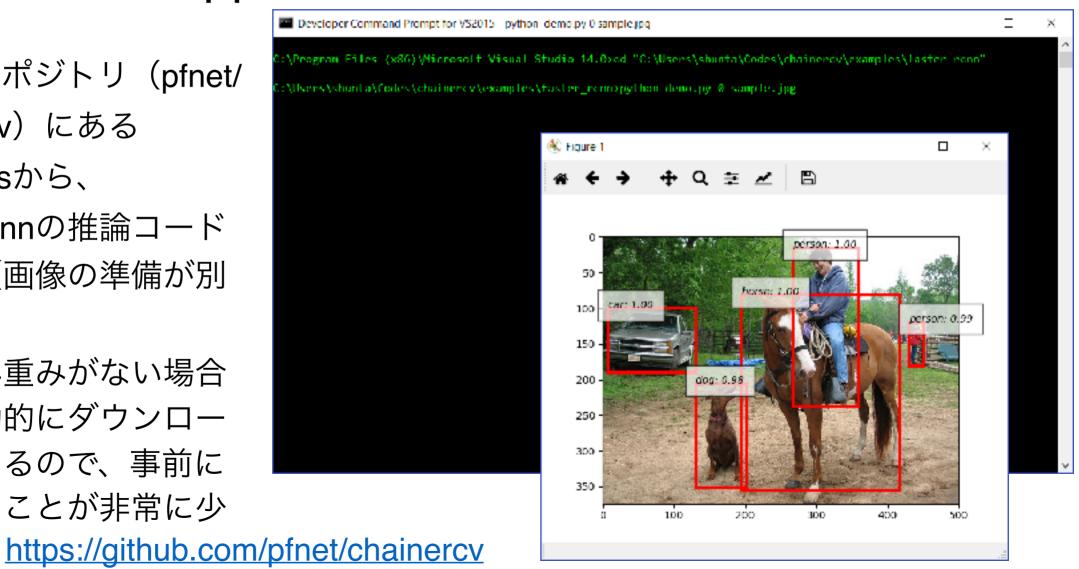
Code (1) Issues (12 (1) Pull requests (8) III Projects (1) III Wiki https://github.com/pfnet/chainercv

Set of tools for Computer Vision using Chainer

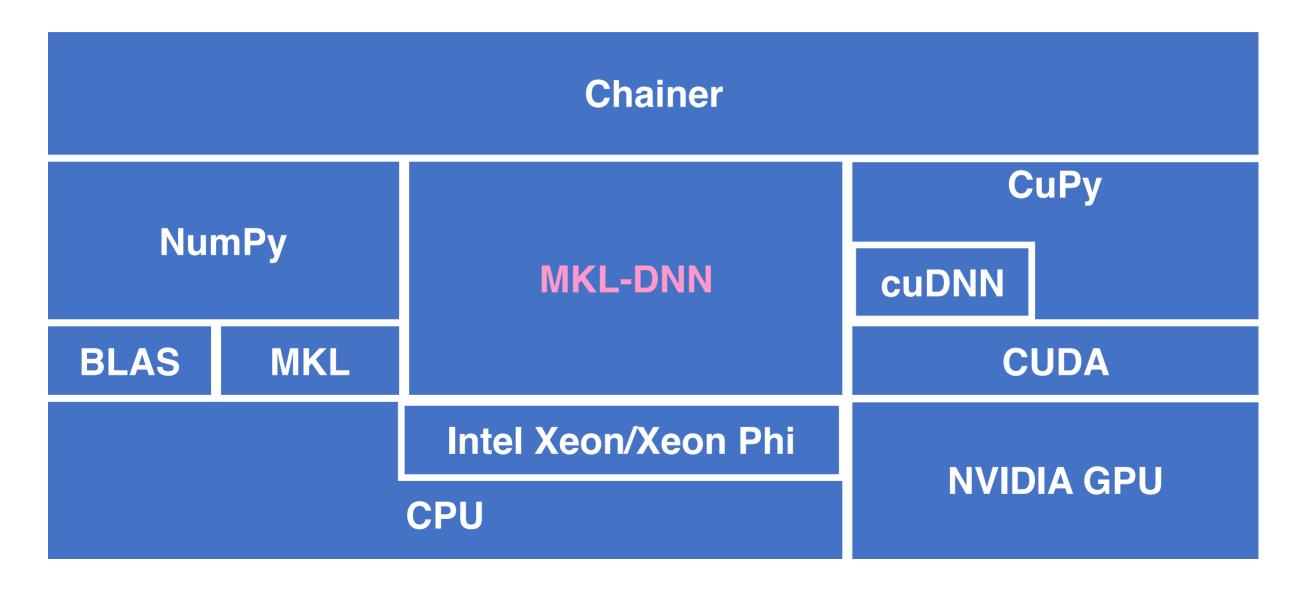
Edit

Chainerインストール後、pip install chainercv するだけ

- Githubリポジトリ(pfnet/ chainercv) にある examplesから、 faster rcnnの推論コード を実行(画像の準備が別 途必要)
- 学習済み重みがない場合 は、自動的にダウンロー ドが始まるので、事前に 準備することが非常に少 ない



Intel Chainer



MKL-DNN

- Intelアーキテクチャ用に最適化されたDNNプリミティブライブラリ(立ち位置としてはNVIDIAにおけるcuDNN)
- サポートするCPU:
 - ✓ Intel Atom(R) processor with Intel(R) SSE4.1 support
 - √ 4th, 5th, 6th and 7th generation Intel(R) Core processor
 - ✓ Intel(R) Xeon(R) processor E5 v3 family (code named Haswell)
 - ✓ Intel(R) Xeon(R) processor E5 v4 family (code named Broadwell)
 - ✓ Intel(R) Xeon(R) Platinum processor family (code name Skylake)
 - ✓ Intel(R) Xeon Phi(TM) product family x200 (code named Knights Landing)
 - ✓ Future Intel(R) Xeon Phi(TM) processor (code named Knights Mill)
- 上記のCPU上でのニューラルネットワークの計算を大幅に高速化する

convnet-benchmarks*による速度比較

	Intel Chainer	Chainer with NumPy (MKL-Build)
Alexnet Forward	429.16 ms	5041.91 ms
Alexnet Backward	841.73 ms	5569.49 ms
Alexnet Total	1270.89 ms	10611.40 ms

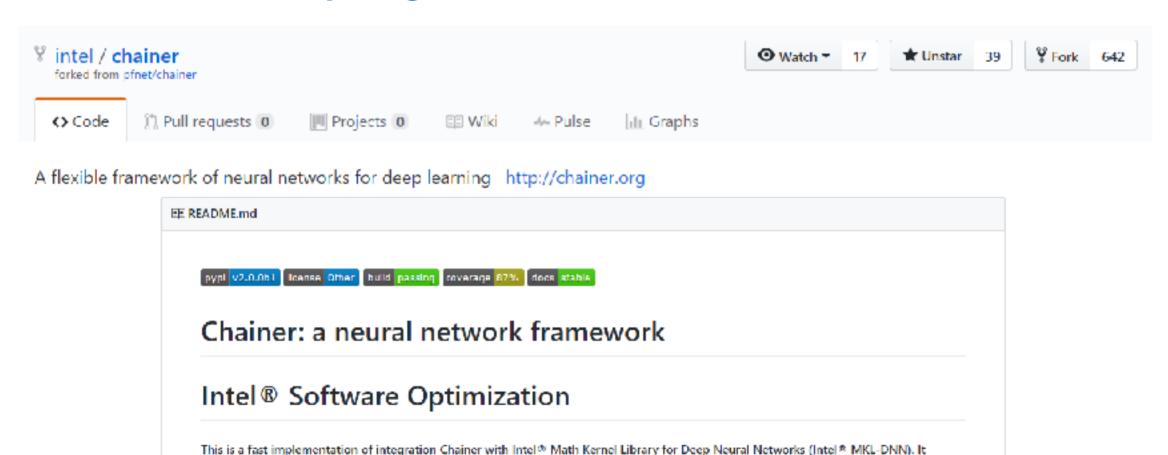
およそ8.35倍の高速化!



ChainerV2のフォークとしてIntelにより活発に開発が続けられている

accelerates Chainer on CPU, esp. Intel® Xeon® and Intel® Xeon Phi™ processors.

https://github.com/intel/chainer

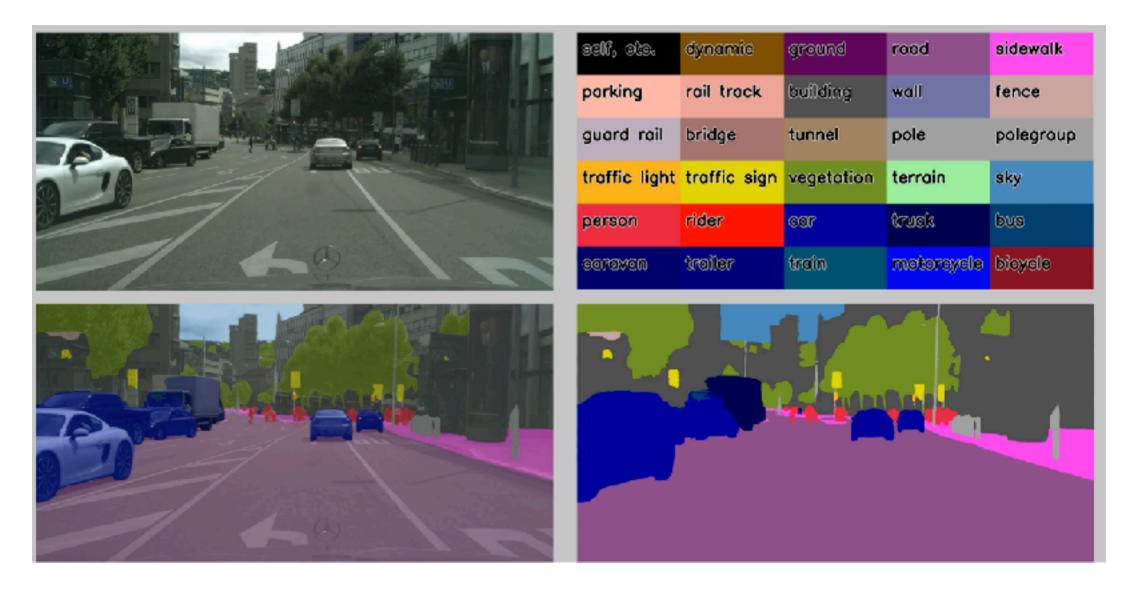


Applications using Chainer

Object Detection



Semantic Segmentation



Ponanza Chainer

- 世界コンピュータ将棋選手権に出場、2位
- Ponanza(世界コンピュータ将棋選手権2連覇(2015, 2016))ベース
- Ponanzaが探索を行う指し手のオーダリングにDeep Learningを応用

した技術を使用し、対Ponanzaで8割以上の勝率 Team PFN

Team Ponanza



Issei Yamamoto



Akira Shimoyama









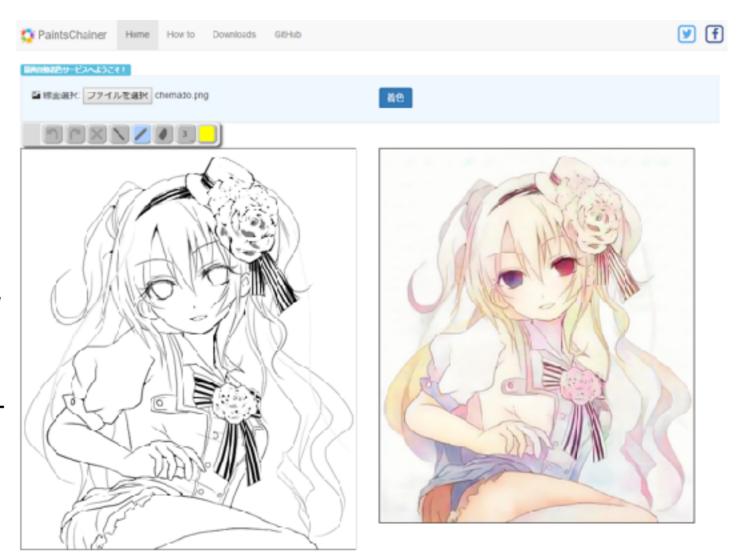




Paints Chainer

- 線画の自動着色を行うWebサービス
- 線画とその着色済み画像のペア を大量に用意
- 線画+ヒントを入力にして、着 色後画像を出力する畳み込みネッ トワークを訓練
- ただそれだけでは塗りにバリエー ションが出ない...
- Adversarial lossを加えることで より自然で多様な塗りを実現

https://paintschainer.preferred.tech



線画:ちょまどさん

Companies supporting Chainer

Chainerの開発に加わっている企業









Contributing to Chainer

Chainerはオープンソースです。

- https://github.com/pfnet/chainer からPRを送ることができます。
- さらに加速している深層学習研究の発展スピードに合わせて、Chainerも開発方針等の更新を行います。
 - リリースサイクルの変更
 - 新しい機能を優先的に取り入れる方針に
 - とにかく最先端の研究成果を素早く取り入れられることを重視

Date	ver 2	ver 3	ver 4
1 month later	v2.0.2	v3.0.0b1	
2 months later	v2.0.3	v3.0.0rc1	
3 months later		v3.0.0	v4.0.0a1